

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100116		
法人名	有限会社 クレイン・ケア		
事業所名	グループホーム 晴海の丘 二番館	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市蚊焼町215番地1		
自己評価作成日	平成25年5月11日	評価結果市町村受理日	平成25年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年6月27日	評価確定日	平成25年8月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『お話しっぱい、笑顔がっぱい、花がっぱい、だからしあわせがっぱい』という理念のもと、利用者様の笑顔を大切にしながら個々人の思いと真剣に向き合い、意思を尊重したケアを実践している。家族様との関りも積極的に行い、利用者様に関する事のみならず様々な相談に応じ、より良い関係作りを図っている。また、資格取得に向けた努力や毎月開催中の勉強会への積極的な参加など、職員の方のケアに対する向上心が多く見受けられるようになっている。これに加え、新人職員に対する研修カリキュラムを含めた業務マニュアルの確立に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の生活の中で常に笑いのある生活になるように心がけている。ご本人のお気持ちや自然と動くような声かけの工夫が続けられ、ご本人の笑顔を引き出せるように日々努めている。ベテラン職員から新人職員まで勤務しており、年齢層も幅があり、職員個々の個性を発揮しながら良きチームワークが作られてきている。24年度から新しく入居された方もおられ、ご利用者同士で居室を行き来する姿も増えている。“新しいご利用者の方では全職員が新人”と言う考えを大切に、職員全員で情報共有し、ケアのあり方の検討が行われている。ご利用者の中には重度化している方もおられ、遠方への外出が少なくなっているが、施設内での行事や演奏会には参加され、地域の知り合いの人との再会を楽しまれている。看護師でもある施設長と次長からの医療面のアドバイスは日常的に受けられ、勉強会も定期的に行われている。介護士長や主任からのケア面のアドバイスもあり、職員個々にレベルアップできる環境が作られている。今後も家族との情報交換を増やし、ご本人と家族の歴史を紡いでいくお手伝いを続けていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で安心した生活を支援できるような環境を整えます』の理念の意義を理解し、実践に生かせるよう日々努力を重ねています。	職員の観察力も高まり、ご利用者のできる事を探し、実践に繋ぐ事ができている。ご利用者の個性や思いを受容する職員の姿勢は抜群で、声かけにはユニークさも加えながら、ご本人の行動に繋げる支援を続けている。今後も更に、理念に基づいた介護の質の向上を図るための取り組みを続けていく予定にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体の職員が増員することにより、地域との交流の輪も広がり活発になってきている。今後も事業所全体として地域に溶け込むよう努めていく。	職員の駐車場を、ホームの敷地内から施設全体の駐車場に変更した事で、犬の散歩の方や地域の方との挨拶等が増えている。児童入所施設の子供から花を頂くので、施設長がプランターに土を入れてお返ししている。出入りの業者(電気工事)の方も会議のメンバーになって頂き、住民としての意見を頂く機会が増えてきている。	地域の防火の取り組みを深めるために、消防団との連携を検討している。また、民生委員の集まりにも参加を始めており、二番館の代表として活動報告を行う予定にしている。地道な活動を通して、地域の方々との交流を広げていきたいと考えられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員独自に知人の相談を受けたり、必要であれば事業所での相談・援助に繋げている。また、認知症についての相談や支援の方法などについてもアドバイスをさせていただいている。AED設置についても地域に公表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告及び参加メンバーからの質問・意見・要望を頂き、活発な意見交換を行っている。また、頂いた意見等を更なるサービスの向上につなげられるよう活かしている。	毎月の行事報告やご利用者の生活状況が伝えられ、参加者からも経験に応じた意見やアドバイスを頂いている。携帯電話の使用方法(マナー等)についても全職員にアンケートを実施し、参加者の方からも意見を頂けており、事業所内での取り決め作成に活かしている。新しい参加者も加わり、和気あいあいとした会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請・手続き等で訪れたり、電話連絡の際に事業所の実情等を伝えている。しかし、じっくりと話ができていない状態ではなく、連携が取れているとは言えない。	地域包括主体で民生委員の集まりを毎月されており、主任が参加して情報交換をしている。施設長が生保の方の相談を福祉事務所の方にしたり、事務長が加算関係等の相談をしており、担当の方は親身にアドバイスを下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への積極的な参加を推進し、伝達講習を行っている。拘束はしないとの認識は共有できており、実践にも活かしている。	ご利用者の人権を守る事がケアの基本であるという認識に立ち、「尊厳の確保」をケアの実践目標としている。「認知症の理解をしていけば虐待はない」との指導のもと、認知症の勉強会も繰り返し続けている。“身体拘束は絶対にしない”と言う方針であり、職員がストレスをためないように主任も職員の話しを聞いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず心理的虐待やケアの放棄など、自覚のない虐待についても知識を深め、常に意識してケアを行うことで防止に努めている。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ対応が必要な利用者様はおられないが、将来的に制度の理解を勉強会・研修などに参加して深めていくよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足や誤解などが生じる可能性があるため、現在のところは主に施設次長・介護士長が対応にあたり、相談に応じながらホームの考え方や取組みについても詳しく、納得頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や支払いのために来設した際に、利用者様の近況報告は職員より行い、医療面に関しては看護師(次長)から説明をさせてもらっている。それに併せて家族様の意見や要望も受け入れている。	ご利用者と会話をする時間を大切にしており、表情等からも意向の確認を続けている。家族から火災予防に関する意見も頂き、喫煙への規則なども定められた。健康面は次長や主任などが毎月家族に伝えると共に、事務長も契約時や来訪時等に家族の方と話す時間を大切にされている。	日々のケアに必要な車いすを購入する場合も、家族の協力を頂けており、ケアに関する情報交換も行っている。今後も積極的に家族の方々に暮らしぶりを伝えていくと共に、外出時の状況や介護計画の情報も詳しく報告していきたいと考えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の入替わりにより、これまでのケアの見直しや情報交換を活発に行い共有できるよう努めている。その中で、職員一人ひとりから意見や質問が多く聞かれるようになってきている。管理者は、管理運営ミーティング内で意見・提案を細かに行っている。	経験の長い主任や他の職員が新人職員へのアドバイスを行っている。行事企画や勉強会の内容についての要望も聞かれ、カンファレンスにて話し合い、施設長へ許可申請を行っている。日々のケアでも職員のアイデアは豊富で、職員手作りの物も増えている。ご利用者に楽しんで頂く事を第一に、検討を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の『資格を取りたい』という気持ち・意欲に添って支援を行っている。施設長自らが講師となり実技指導やアドバイスを行っている。また2回/年の健康診断を実施し、心身の健康を保つ対応も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には資格取得に意欲を持ってもらう為、施設内の勉強会への参加を促し、施設外研修へも勤務扱いとして参加してもらっている。講習会・研修会の情報は回覧・申し込みも施設にて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで知り合った同業者との情報交換を行い、親睦を深めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院されている場合は病院へ訪問し、身体の状態を含め本人の思いなども聴くようにしている。家族様との連絡を密にし、家庭に訪問したり、事業所の見学も勧めている。一方的に尋ねることはせず、傾聴することに努める場面もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは話を聞くことに重点を置いている。その中から不安・要望等を整理し、確認して頂くことで信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者様・家族様が何をしたいのか・何を思っておられるか・事業所として何ができるのかを見極め、必要なサービスへと繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の今、できる事を探し、強要することなく生活の場面で自ら積極的になれるような環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会などを通じて家族の思いや生活歴などを聞きながら、現在の暮らしぶりを報告して、今後支援していくために何が必要かなど共に検討していける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの利用者様は心身の状態低下に伴い、遠方への外出が少なくなっている。その中で、施設内での行事や演奏会には参加され、地域の知り合いの人との再会を楽しまれている。	家族や知人の方の来訪時は、今後も遊びに来て頂けるよう笑顔で挨拶し、歓迎を込めたおもてなし等をしている。系列の施設で行われる演奏会にも毎年参加し、お知り合いの方や同郷の方との再会を楽しまれている。家族と馴染みのスーパーに行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昨年・今年と新規入居者があり(3名)、リビングではもちろん、居室への行き来やソファに座って会話されている場面が多く見受けられている。職員は、転倒などがないように居室の環境整備に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自由に遊びに来てもらえる等、継続的な付き合いを支援している。また、相談があれば気軽に応じるような関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が今望んでいる事、して欲しい事を会話の中で探したり、家族様が面会の折、それとなく聞いてもらい物品なら誕生日のプレゼントなどにも反映させている。	日常の会話の中から思いを把握すると共に、他のご利用者で過ごされている時の表情や言動も大切にしている。ご利用者同士の会話の中から「〇〇に遊びに行こう」等の言葉が聞かれたり、テレビを見ながら、「刺身やケーキ等が食べたい」と言って頂く事もあり、実現に向けた検討を行っている。	意思疎通が難しい方に対して、どれだけ心の声を聞く事ができるかを常に考えている。職員から積極的に声かけしたり、表情によっては傍で見守りを行う等の個別の関わりを続けている。今後も家族の意見を頂きながら、安心した生活に繋げていきたいと考えている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中や家族様の訪問時に伺ったことなど知り得た情報をカンファレンスなどで報告し全スタッフで共有している。サービス利用の経過は介護記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の表情や話しぶり・行動・バイタルチェックなどで心身の状態を把握している。入浴は特に体調面に留意して実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の入替りによる経験不足もあり、作成に苦慮している状況で、先輩職員の指導や助言と施設次長の最終的な確認で現状に即した介護計画となっている。	主任と各担当者が中心になり、職員全員でミーティングを行っている。ご利用者と家族の意向を基に作成された原案に対し、施設長や次長、介護士長から助言を頂き、主治医やOTの意見も頂いている。生活リハビリの視点も大切に、ご本人のできる事をして頂いている。今後もタイムリーな見直しをしていく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	立位が困難な利用者様の体重測定は車椅子ごと測定できる体重計を活用し、月1回測定・記録している。食事・排泄などのチェック表の記入もより細かく出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携して定期的な往診や緊急時の対応もして頂いている。また、外出が困難な利用者様に対し、理美容師の訪問協力も仰いでいる。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署職員には定期的な消防訓練・AEDの使用法・応急手当や搬送方法の講習を行って貰っている。運営推進会議の委員に地域包括支援センターの職員や民生委員の方もおられ、情報交換も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様対応の眼科受診が定期的にあるが、歯科を含め往診がほとんどで、月曜～金曜まで毎日1～2名の往診がある。急変時も臨時に対応できるようになっており、往診時には職員も立ち会っている。	医師との意見交換は主に次長が行っている。身体状況と合わせ、生活全般の報告をしており、信頼関係も作られている。通院時は家族が同行して頂き、受診時の情報共有もできている。施設長が認知面の進行やケア内容のアドバイスをして下さり、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長・施設次長が看護師でもあるので利用者様の健康管理や緊急時の対応も迅速に行うことが出来ている。介護記録にも目を通され現状の把握もされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にして情報交換やカンファレンスにも参加。双方の円滑なやり取りができるように努め、利用者様・家族様が不安にならない対応を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を書面にて定めてあるので家族様・医師・専門職の関係者・施設長・施設次長を交えて話し合いを行っている。状況の変化がある毎に家族様の意向の変化にも注意を払っている。	ご利用者と家族の意向を確認し、終末期の前から主治医の指示を仰ぎ、家族との話し合いも重ねている。施設長、次長が看護師であり、1日1回は様子を見に来られ、状態の報告を行うと共に、職員の精神的支援も行われている。全員の方が「最後までここで…」と願われており、職員全員で温かいケアが行われている。少しでも経口から食べられるように優しく声かけし、食事介助を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当やAEDの使用法などの講習会を開いて体験・習得するように繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が防災の責任者としてリーダーシップをとり、施設全体の年間計画作成及び、実施している。また、運営推進会議へ出席し、内容の報告を行うと共に、訓練時には指導も行っている。施設自体の避難方法もマニュアル化している。	年に2回、南消防署職員も一緒に昼夜想定総合訓練を行っている。災害時は、地域の方々の避難場所に使って頂けるよう、地域の方も含めて3日分の食料と飲料水、寒さをしのぐための毛布や布団類等を準備している。搬送判断の色分けも行われ、消防隊が外から見てもわかるように窓にも番号が貼られている。	防災管理者を中心に災害の予防対策と共に、災害対策の検討も続けられている。今後も近隣住民との連携体制の構築を行うと共に、蚊焼町の消防団とも連携していく予定であり、自然災害を含めて更なる防災用品を整えている段階である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関しては自立している利用者様もおられるので、特に排便の状況を知る為の声掛けには注意を払い、職員間でタイミングや言葉遣いなどについて定例会等で検討を重ねている。	意思疎通が難しい方もおられるが、職員は根気よく、ご利用者本人に語りかけている。ご利用者の“尊厳の確保”を常に意識し、“馴れ”に甘えず、敬意を払い接するよう職員に伝え続けている。個人情報取り扱いにも配慮し、保管場所を決めて管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に押し付けることはせず、複数の提案を用意して利用者様が決定できるようにしている。また、家族様にも本人の意向を確認してもらったり、意見を聞くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食など一人ひとりのペースに合わせている。日課の体操やレクレーションへの参加も本人の意思に任せて強要はせず、体調にも配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔後や入浴後に乳液やクリームを塗る利用者様もおられるので、リビングでは場所の提供(設定)や声掛けで手伝いを行っている。また、在庫が少なくなっている場合の家族様への連絡(依頼)も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理への参加は難しいが、特定の利用者様による皮むき等は認められている。また、下膳を必ず行って下さる利用者様もおられる。	昼食と夕食は配食サービスを利用しており、食材や献立に季節を取り入れる工夫や郷土料理も取り入れて頂いている。行事食は職員が工夫して調理をしている。食事の姿勢にも配慮し、手作りの足置きも利用され、食欲が湧くようにユニークな声かけもしている。はちみつ梅等も手作りしており、ご利用者も楽しみに食べられている。	食事介助が必要になっている方も増えている中、いつまでも食べる事の楽しみが継続できるよう、献立の説明や盛り付け、座席の配置なども更に考慮していきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回チェックを行い、記録に残している。嚥下状態の悪化から普通食が難しくなっている方には、キザミ食・ミキサー食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、TVを熱心に観ている利用者には番組終了後やタイミングを図り、声掛けて洗面所へ誘導・促しを行っている。義歯の洗浄は毎食後、自力で出来ない利用者様も介助にて行い、口腔内はガーゼ清拭もしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を基に、その日の体調にも考慮して声掛けや促しでトイレ誘導を行っている。尿漏れなどの対応には、他の利用者様に気づかれないように速やかに実践出来るよう職員間で連携をとっている。	オムツ使用の必要性等についてもカンファレンスで話し合っている。失禁時のために着替え一式を事前に準備し、周囲に気づかれない対応も心がけている。「トイレの神様から電話があった」等のユニークな声かけも行われ、トイレに気持ちが向かうようにしている。入居時にオムツだった方が1週間で布パンツになられた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便へのこだわりが強い利用者様には、便器内の確認を一緒に行い、回数の認識をもってもらう意味からチェック表の提示も行っている。食事以外での水分補給も他の利用者様より多めに摂ってもらうように促している。便秘薬の処方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体方面と安全を考慮して、状況に合わせ2名介助を行い、安心して入浴を楽しんでもらっている。菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤では季節感を出している。入浴拒否の利用者様にはタイミングを図り、トイレ後に誘導したり、声掛けを工夫して入浴を促している。	浴室は綺麗に整頓されている。シャンプー等は好みの物を使用して頂き、わかりやすいように「ぼでいそーぶ」と平仮名で書かれている。柚子湯や菖蒲湯を楽しまれ、入浴ができない方の布団の下には菖蒲を敷いて差し上げているが、今後もシャワー浴の検討を続ける予定にしている。拒否が見られる方は家族から勧めて頂く事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な体操やレクリエーションを行い、日中は一人ひとりの体調に合わせて身体を動かしてもらっている。最近は休息を兼ねて午睡される方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルにまとめ、通常より薬の効能・副作用等を確認できるようにしている。また、医師や看護師よりの指示や処置を含め個人ファイルに詳細な記録を行い、職員全員が共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターや植木鉢に花の種蒔きをして成長の楽しみを皆で分かち合っている。出来そうなことには本人のやる気を尊重して楽しみながら手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では家族様より散歩(施設周辺)に連れて行きたいとの申し入れが多くなっており、30~40分程、車椅子や徒歩で楽しんでもらっている。参加人数は少なくなっているが、チューリップ見学や花見は恒例行事となっている。	ご利用者の重度化に伴い、全員での外出や遠出の外出は少なくなってきた。施設周辺での花火を楽しまれたり、季節に応じた桜の花見などを楽しまれていた。I 番館の方が来て下さり、茶話会を楽しむ機会も作られ、ごみ出しに一緒に行かれたり、事務所まで書類を届けに行く機会も作られている。家族と一緒に散歩されたり、受診の帰りに外食される方もおられる。	家族の面会時に車椅子で気軽に戸外へ出かけ、自然の中で話しながら気分転換を図ってもらえるよう、屋外のベンチの整備や草刈り等の環境整備を行いたいと考えている。少しでも外出が増えるよう、業務のあり方などの検討も続けていく予定であり、体操を外で行う等、気分転換時間(15分タイム)を意識して作る事も検討していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様や家族様の意向が強い場合には確認を行い、小銭の入った財布を持って頂いたこともある。外出の際には小遣いの中から払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたりする利用者様は現在おられないが、帰宅願望が強い利用者様の対応として職員が家族へ電話し、取り次ぐこともある。その場合は、日時など記録に残し、職員間での情報の共有も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規利用者様の加入によりリビングで過ごす時間が以前より多くなっているため、湿温調節には特に気を配り、快適に過ごしてもらえるようにしている。家族様からの生花のプレゼントも多くなっている。	安全性に配慮し、廊下やリビングにはカーペットが敷かれている。リビングからは緑豊かな山々が見え、朝食時の調理の音や香りの中で、ゆっくりとお茶ができる空間が作られている。季節に合わせてカーテンの掛け替えも行い、光や色が不快にならないように工夫している。ご利用者同士がお誘いして、各居室で過ごされる姿も見られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはリクライニングになっており、最近では居室に一人で居るよりソファで臥床して寛がれる利用者様がおられる。日中リビングに誰も居ないという状況は少ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が写真たてを持って来られ思い出の写真や飾り、詩吟の師範認定書を置いていたり、仏壇があったりとそれぞれの利用者様の人生がうかがい知れる居室となっている。	各居室は明るく、ご本人が使い慣れた寝具やソファ、収納ケース等を持ち込まれている。家族との思い出の写真やプレゼントのぬいぐるみ等も飾られている。お部屋の中で職員と一緒にタンスの整理なども行っており、ご本人が過ごしやすい配慮が続けられている。カーテンの開け閉めも、ご本人の意思を確認している。	ご本人にとっての快適な空間作りを続けており、家族にも意見を頂きながら一緒にお部屋作りをしていく予定である。各居室にお花(造花も含めて)を飾りたいと考えており、季節を感じて頂くために風鈴を下げたり、金魚を見て頂く機会も作る予定である。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のできること・わかることを日々の行動や表情・会話の中から見極め声掛けしながら混乱のない様に自立支援を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10 19	家族様が気兼ね・気遣いなく意見・要望が伝えられる環境整備が必要である。また、家族様の秘めた思いや要望を押し量ることが出来る人材育成(教育)が必要である。	家族様の思いの把握及び的確な情報提供により、円滑なコミュニケーションと更なる信頼関係の構築に努める。	『利用者様の日常を知りたい』『利用者様の快適な生活を望む(求める)』という家族様の気持ちを常に頭に置き、意識して支援していく。介護計画への反映・詳細な説明を含む、日常的な職員サイドから家族様に対する働きかけを行っていく。	24 ヶ月
2	23 49 54	利用者様が望んでおられる生活を個々に合わせて実現するために、表出されない思いや意向の更なる収集・把握が必要である。	日々の生活の中で利用者様のたくさんの笑顔が長く続くように、寄り添った支援を模索・実践する。	言語的なコミュニケーションのみに頼らず、表情や仕草、他の利用者様との関係性など常に観察しながら即したコミュニケーションの方法を模索する。短時間の散歩や外の空気を吸って頂くなどの気分転換の方法を多く取り入れる。また、居住環境の更なる整備を行う。	24 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月